

科目名 (英)	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	(通年科目)前期
【授業の学習内容】							
リハビリテーションは広い分野から成り立っており、医療的なサポートの中隔をなす。そのリハビリテーション医学・医療について正しい知識をもち、鍼灸施術の一助になるようにする。リハビリテーションの理念と方法や、各疾患のリハビリテーションなどの各論及び、リハビリテーション理解のために運動の仕組みや重要な部分である理学療法・作業療法・言語療法についても体系的に学習する。 阪本 実務実績 鍼灸院やクリニック、付属治療院での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】							
目標①運動発達、言語聴覚療法に対するリハビリテーションについて答えられる。 目標②高齢者・地域リハビリテーションについて答えられる。 目標③脳卒中・片麻痺、脊髄損傷、運動器疾患に対するリハビリテーションについて答えられる。 目標④呼吸器疾患や心疾患に対するリハビリテーションについて答えられる。 目標⑤切断・骨関節疾患に対するリハビリテーションについて答えられる。 目標⑥関節リウマチや末梢神経障害に対するリハビリテーションについて答えられる。 目標⑦姿勢、身体各部の運動、歩行などの異常について答えられる。							

授業計画・内容	
1回目	リハビリテーションを支える基本理念、障害と生活の捉え方、リハビリテーション医学の概念、リハビリテーション医学とチームアプローチについて説明できる。
2回目	リハビリテーションの進め方、地域ケアと地域リハビリテーションについて説明できる。高齢化社会の特性、障害高齢者数、対象疾患など統計的状況を説明できる。
3回目	心身機能・身体構造の評価、活動・参加の評価 ADL、歩行、廃用症候群の評価、運動麻痺(弛緩性麻痺・痙性麻痺)の評価について説明できる。
4回目	障害の評価(運動年齢・失行失認・心理テスト) 運動発達・評価法、高次脳機能評価、心理的評価、摂食嚥下障害について説明できる
5回目	理学療法の意義、各種運動療法、物理療法について説明できる。 作業療法とは 作業療法の種類、特徴について説明できる。
6回目	失語症、構音障害、言語発達障害、摂食嚥下障害について説明できる。装具・杖・自助具・車椅子・義肢について説明できる。
7回目	脳卒中の評価、急性期・回復期のリハビリテーションについて説明できる。
8回目	言語療法、リスク管理、ホームプログラムとアフタケアについて説明できる。
9回目	脊髄損傷のリハビリテーション(脊髄損傷とは) 急性期、回復期のリハビリテーションについて説明できる。
10回目	脊髄損傷のリハビリテーション(脊髄損傷とは) 社会復帰のリハビリテーションについて説明できる。
11回目	小児のリハビリテーション 小児のリハビリテーションの特徴、脳性麻痺のリハビリテーションについて説明できる
12回目	関節リウマチのリハビリテーション 評価、リハビリテーション、生活指導について説明できる。
13回目	末梢神経障害・パーキンソン病リハビリテーション 原因、評価、リハビリテーション、特徴、生活指導について説明できる。
14回目	呼吸器疾患・心疾患のリハビリテーション 評価、リハビリテーション、リスク管理について説明できる。
15回目	身体各部の機能 正常歩行と異常歩行について説明できる。
準備学習 時間外学習	授業に該当する範囲の教科書の熟読をしてください。リハビリテーションは他科目との複合的な分野である為、解剖学・運動学・臨床医学各論の復習をし理解を高めておいてください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:リハビリテーション医学 第4版 土肥 信之 著 医歯薬出版	

科目名 (英)	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	阪本 尚美/嶋田 琢磨/前田見太郎
学科・コース	鍼灸科	授業形態	演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	(通年科目)後期
【授業の学習内容】							
リハビリテーションは広い分野から成り立っており、医療的なサポートの中隔をなす。そのリハビリテーション医学・医療について正しい知識をもち、鍼灸施術の一助になるようにする。リハビリテーションの理念と方法や、各疾患のリハビリテーションなどの各論及び、リハビリテーション理解のために運動の仕組みや重要な部分である理学療法・作業療法・言語療法についても体系的に学習する。 阪本 実務実績 鍼灸院やクリニック、付属治療院での診察から治療までの業務に従事 医療系専門学校にて教鞭をとる。 資 格 はり師、きゅう師							
【到達目標】							
チーム医療の必要性や連携を図るために必要な共通言語や各疾患の病態把握方法、処置について理解する。 また病態把握のために必要なスペシャルテストについてその意義、方法について理解し、実践することができる。							

授業計画・内容	
16回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他の医療職種の業務特性について理解することができる。他医療職へ鍼灸師としての業務内容を説明することができる。
17回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他の医療職種の業務特性を理解した上で、協働について検討することができる。
18回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と協働してリハビリ計画を立てるための評価計画を作成する。
19回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と協働して患者様の身体所見を測定する(①)。
20回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と身体所見を共有する。
21回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と協働して病態把握を行い、治療目標やリハビリ計画を考える。
22回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と協働して追加項目を考え、評価計画を作成する。
23回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と協働して患者様の身体所見を測定する(②)。
24回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と協働してリハビリ計画と症例検討用の発表資料を作成する。
25回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と協働して症例検討(発表)を行う(①)。
26回目	医学的リハビリテーション(チーム医療) 他職種と協働して症例検討(発表)を行う(②)。
27回目	臨床整形外科のスペシャルテスト 肩関節・肘関節・手関節 運動機能障害の原因を解剖学的、運動学的に評価を行うことができる。
28回目	臨床整形外科のスペシャルテスト 腰部・骨盤・股関節 運動機能障害の原因を解剖学的、運動学的に評価を行うことができる。
29回目	臨床整形外科のスペシャルテスト 膝関節・足関節 運動機能障害の原因を解剖学的、運動学的に評価を行うことができる。
30回目	物理療法 物理療法機器の種類、適応について理解し、安全に使用する知識を習得することができる。
準備学習 時間外学習	授業に該当する範囲の教科書の熟読をしてください。リハビリテーションは他科目との複合的な分野である為、解剖学・運動学・臨床医学各論の復習をし理解を高めておいてください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:リハビリテーション医学 第4版 土肥 信之 著 医歯薬出版 参考書:運動機能障害の「なぜ」がわかる評価戦略・運動器疾患の「なぜ」がわかる臨床解剖学 病態動画から学ぶ臨床整形外科テスト	